



はんだ山の風



Contents

- P.2 おもてなしの心 副病院長(患者サービス担当) 桑原 弓枝
- P.2 新任医師の紹介 小児外科 特任准教授 小児外科 科長 川原 央好
- P.3 新任医師の紹介 子どものこころの発達研究センター 特任准教授 高貝 就
- P.4 シリーズ最先端医療「脳深部刺激術の最近の進歩」
脳神経外科 准教授 杉山 憲嗣
- P.5 病気 ここが知りたい「がんとFDG-PET」
放射線科 教授 阪原 晴海
- P.5 病院ボランティアの功績に感謝状を授与 医事課
- P.6 「ふれあい看護体験」に参加して 病院ボランティア 木野 徳子
- P.6 院内学級(たんぼぼ学級) 治療と学習の両立 医事課医事企画係
- P.7 相談カウンターコーナーの紹介 看護部
- P.7 病院玄関に手洗い・手指消毒設備ができました 感染対策室
- P.8 <車いす10台> が寄贈されました 医事課
- P.8 患者さんへの大事なお知らせ 外来初診予約制の導入について 医事課



浜松医科大学医学部附属病院 常勤・パート看護師募集

お問い合わせ

- 人事課任用係 TEL.053(435)2117
- 看護部事務室 TEL.053(435)2627

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を養成する。

基本方針

- 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
- 社会・地域医療への貢献
- 良質な医療人の育成
- 高度な医療の追求
- 健全な病院運営の確立

おもてなしの心

副病院長(患者サービス担当) 桑原 弓枝



当院の外来棟の大改修工事は、平成23年2月に着工し、今年7月末をもって完成となります。これまで、患者様やご家族の皆様方には、多大なるご不便やご迷惑をおかけしましたことを、お詫び申し上げます。

さて、外来棟の構造や案内表示は、「ユニバーサルデザイン」を視野に入れ、できうる限り利用される方の年齢、性別、能力（のうりょく）、経験（けいけん）などの違いに対応し、目にもやさしく親しみのあるデザインに仕上げ、安心してご利用いただけるように選定してまいりました。しかしながら、改修工事の限界もあり、不十分な点も残されております。今後は、使いにくい・わかりにくいなど、皆様の声を反映して、改善してまいります。

外来棟のデザインで、目につく箇所をいくつかご紹介いたします。その一つ目として、パステルカラーを配し変化に富んだ4つのライトコート（光庭）があげられます。患者様やお見舞客のガイドポスト（道しるべ）として役立つことを期待しております。4色の意味は青「水の庭」、ベージュ「土の庭」、緑「木の庭」、ピンク「花の庭」で、やわらかい色彩の光を取り込み、癒しの空間を演出しています。

ちなみに、入院棟には橙「夕日の庭」と黄「朝日の庭」があり、花で飾られたテラスを各階から

眺めることができます。病院という空間を少しでも安らげるよう、おもてなしの気持ちをもって維持管理しております。

二つ目として、トイレ表示があります。鮮明なブルーとピンクで統一され、人型で男女を区別しています。離れたところからでも一目で場所を確認することができます。

三つ目としては、3階のキッズルームが完成しました。小さなお子さんをお持ちの親御さんにとっては、診療の待ち時間をどのように過ごすか、悩むところであったかと思えます。キッズルームは小児科と眼科の呼び出しが、直接放送されるようになっていきますので、安心してご使用いただけます。また、小児科の診察室の扉には、楽しい動物たちが描かれ、少しでもお子さんの緊張や不安が和らぐように工夫されております。

最後に、当院は災害拠点病院としての使命があることから、外来棟2階のエントランスホールの柱には医療ガスの設備が内蔵され、会計センター前の待合椅子は、簡易ベッドに早変わりするデザインとなっています。災害時に地域の方々が安心して当院をご利用いただけることを念頭に、これからも、設備や体制を整えていきたいと思えます。

新任医師の紹介

小児外科 特任准教授 小児外科 科長 川原 央好

私は平成25年4月1日に浜松医科大学小児外科に赴任しました。

昭和55年に大阪大学医学部を卒業し、大阪大学医学部附属病院、紀南総合病院、大阪府立母子保健総合医療センター（以下、母子センター）、大阪府立病院で研修を受けました。平成2年に大阪大学小児外科助手となり、平成4年に文部省在外派遣研究員として南オーストラリアの王立アデレード病院消化器内科に留学しました。1年半の留学から帰国後、国立呉病院、大阪大学小児外科（学内講師）を経て、平成14年から母子センターで小児外科副部長、栄養管理室室長（NSTチェア

マン）、在宅支援室副室長として勤務してきました。

33年の医師生活の半分を母子センターで勤務してまいりましたが、新生児外科、消化管運動生理、代謝栄養管理などを主なテーマとして勉強をしてきました。今は亡き岡田正大阪大学小児外科初代教授が代謝栄養分野のパイオニアであったため、卒後研修を終えて帰局した時に栄養管理を勉強し、「胆道閉鎖症患児の栄養評価指標としての血漿Fischer比の意義」というテーマで大阪大学の学位をいただきました。平



成21年からNSTチェアマンや栄養管理室室長として、妊婦や小児の栄養管理にとり組んできました。

医師になり3年目に母子センターで新生児外科の研修を始め、先輩の指導のもとでドキドキしながら新生児手術をしていたのがつい先日のことのように思えます。今となっては正確な数字はわかりませんが、数百例の新生児手術にたずさわってきました。30年前に壊死性腸炎による穿孔性腹膜炎になった術時体重602gの超低出生体重児の方が、今年の冬に第一子を出産された時には小児外科医として万感の思いがありました。

母子センターには重度の障がいのために経管栄養を必要とする子どもさんが多くおられ、胃食道逆流症を合併されている事が少なくありませんでした。20年前には胃食道逆流症の背景にある消化管運動異常が十分解明されておりませんでした。その分野の世界的権威であるJohn Dent教授に手紙を書いて留学受け入れをお願いし、ヒトの検査

や動物実験を通して消化管運動生理学について勉強をさせていただきました。帰国後も大阪大学や母子センターで、消化管内圧検査、食道胃インピーダンス検査、13Cを用いた胃排出検査などを駆使して小児の様々な消化管運動異常の究明を続けてきました。幸運にも、その成果であるいくつかの英文論文は、欧米のガイドラインや教科書などで引用されております。最近、漢方薬である六君子湯の上部消化管運動への効果などについても明らかにし、漢方薬の小児への応用についても勉強しております。

4月に浜松医科大学に赴任して、右も左もわからない私に、大学や病院のいろいろな方が非常に親切に接してくださっていることに心から感謝しております。小児外科は小さな科ですが、本学の周産期及び小児医療の発展と学生教育のために、微力ですがこれまでの経験をいかして貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医師の紹介

子どものこころの発達研究センター 特任准教授 高貝 就

平成25年4月より、子どものこころの発達研究センターの特任准教授を拝命しました高貝 就（たかがい しゅう）と申します。平成8年に本学精神医学講座に入局し、大学病院および関連病院で働いてきました。精神医学は医学の中の一分野に過ぎませんが、その切り口により薬物・アルコール、児童、老人、司法、リエゾン・緩和ケア、社会精神医学、生物学的精神医学・・・と実に多彩な専門領域が展開しています。まるで昼下がり幼児が部屋の片隅に置かれた万華鏡を何気なく覗き込み、展開されたきらびやかな模様で固唾を飲み魅せられてしまったように、精神科の各領域の面白さに吸い込まれてこの17年間があつと言う間に過ぎてしまいました。しかしまだまだわからないことばかり、というのが偽らざる気持ちです。

わからないことの中でも、特に急務と感じていることの一つに発達障害を始めとした子どものこころの問題があります。前任地の天竜病院児童精神科では、入院治療の内容に工夫を重ねることが多かったです。従来は隣接する県立特別支援学校に通いながら、年単位にわたって療養生活を送るケースも多かったです。しかしこれからは、入院はなるべく短期間とし家庭で治療が可能となった

ら退院し外来治療に切り替えること、入院と外来の機能分化を図ること、そして義務教育就学児へ

の学習保障が大切となってきます。これらの方針を実現するには医療の努力だけでは不十分であり、教育や福祉・行政分野との連携により子どもと家族を支援することが重要であることを実感しました。また、学校の先生や施設・行政職員の方々から、より綿密な医療との連携を望む声や自らの技術向上への熱意を伺うことが多かったです。こういったニーズに応えること、つまり研究成果を教育や福祉分野でもシームレスに活用できるようにすること、それぞれの分野との共同研究を行うこと、各分野のエキスパート養成を支援すること、以上3点を柱として仕事をして行きたいと思っております。3点目につきましては、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科こころの発達健康科学講座の担当教員の立場としても精力的に関わって参りたい所存です。若輩者ですが、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくよろしくお願い申し上げます。





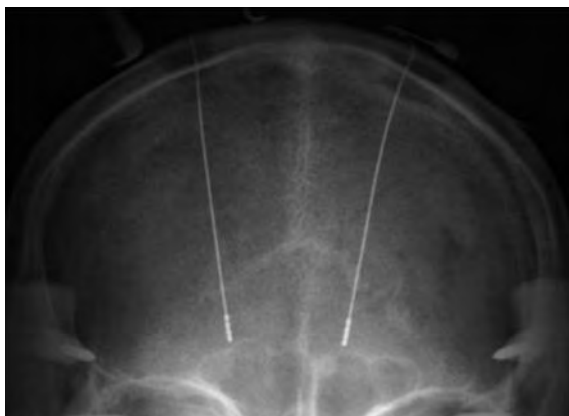
脳深部刺激術の最近の進歩

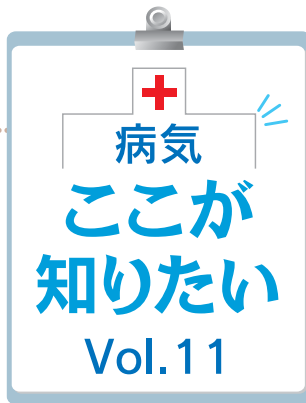
脳神経外科 准教授 杉山 憲嗣

東京都のJR山手線は、同じ経路をぐるっと一周回って最終的に元の場所に戻る環状線です。浜松市にも、「循環まちバスく・る・る」という名前の、同じ経路を通して同じ場所にもどってくる循環バス経路があります。そして脳・脊髄の中にも、同じように大脳から始まって様々な神経核を経て、ぐるっと回って大脳に戻ってくる神経回路が様々有ることが知られるようになってきました。これをループ神経回路と呼んでいます。不随意運動がどのように起こるのか、その原因は一律ではありませんが、その多くのものが中枢神経内に存在するこれらのループ神経回路の障害によって起こることが分かってきました。脳深部刺激療法は、ループ回路障害を起こしている神経の、興奮しすぎているところを鎮め、おとなしく成りすぎているところを活発にして、ループ神経回路の障害を改善する治療法です。パーキンソン病という不随意運動疾患では、ドパミン神経細胞が変性に陥ることによってループ回路障害が起こります。病気が始まった当初は、ドパミンの原料（L-ドパ）やドパミン受容体刺激薬などを内服することによってループ回路障害を改善することができますが、ドパミン神経細胞の変性が進み、その数自体が減ってくると、

薬剤だけではループ回路障害を改善することが難しくなってきます。具体的には、症状の日内変動が激しくなり、薬剤が効いている時期にジスキネジアと呼ばれる不随意運動が出て来ます。パーキンソン病では、視床下核と淡蒼球内節という2つの神経核が興奮することが知られていますので、これらの場所に電極を正確に留置し、前胸部にペースメーカーの様な脳深部刺激装置を設置して、高頻度刺激することで興奮している視床下核や淡蒼球内節を鎮め、上記の症状を取り除くことが出来ます。パーキンソン病の神経変性がさらに進むと、長期的には、一旦は治った歩行・姿勢障害が戻りやすく、また言語・嚥下障害にはあまり効果がない、などの欠点もあります。しかし振戦や固縮、日内変動などの症状には、15年を経過しても有効であることが私たちの経験で分かりました。

薬物治療や神経ブロックなどが聞きにくい疼痛疾患（頑痛症）にも脳深部刺激療法は有効性があり、保険医療となっています。また、日本ではまだ行われていませんが、難治性の強迫性障害やうつ病などの精神科疾患、難治性てんかん、アルツハイマー病、群発頭痛なども、どのようなループ回路障害で症状が起こるかが分かってきており、脳深部刺激療法での治療が試みられています。





「がんとFDG-PET」

放射線科 教授 阪原 晴海

がんと診断されると、その治療方針を決めるためにがんがどの程度広がっているのか評価します。これを病期診断と言います。がんが狭い範囲に限って存在しているのか、隣の臓器にまで広がっているのか、また遠くの臓器に転移しているのか、などにより、手術の術式や抗癌剤の使い方、放射線治療の方法が異なってくるからです。この病期診断においてCTやMRIなどの画像診断が活躍します。がんが局所においてどのくらい広がっているかに関してCTやMRIが有効であるのに対し、FDG-PET（エフディージー ペット）という検査は他の臓器への転移の診断に威力を発揮します。

CTやMRIももちろん転移の診断に役に立ちますが、FDG-PETは全身を容易に検査でき、がんの部分が高いコントラストで写し出しますので、転移を診断するためにもっともよく用いられます。FDGは構造がブドウ糖に似たお薬で放射線を出します。がんはブドウ糖を良く取り込み、FDGもがんに集まります。FDGから出る放射線をPET装置でとらえて絵にすることにより、がんがどこにあるか診断します。FDGが集まっているのがどこか

正確に判断するために、CTと一緒に撮影します。CTの画像にFDGの集積を重ねて表示すると、がんがどこにあるのか、一目瞭然となります。PET装置とCT装置を一体化した装置をPET/CT装置と呼び、当院で稼働しているのもPET/CT装置です。

検査は全部で2時間ぐらいかかります。最初にFDGを注射します。FDGががんに集まるのを待つため注射後1時間ぐらいてしてから撮影を開始します。撮影までの間は安静にさせていただきます。撮影には20分程度かかり、撮影後しばらく休んでから帰っていただきます。FDG-PETの検査にはいくつかの注意点があります。まず絶食を守って下さい。FDGはブドウ糖に似せたお薬ですので、体内の分布が血中のブドウ糖の値に影響されます。また検査の前には運動を控えてください。運動すると筋肉にFDGが入って病変と紛らわしくなることがあります。正確な診断をするためにご協力をお願いします。



病院ボランティアの功績に感謝状を授与

平成25年6月7日（金）開学記念日に、日頃当院スタッフとともに患者さんやご家族の方に温かい手を差し伸べ支援を続けている病院ボランティア活動者に、感謝の意を表し学長から感謝状を贈呈しています。

今年は、外来患者さんの案内、介助等で活躍する3名と院内に年金（障害）相談会を開設し無料で相談を受けつけている1団体が授与されました。

“少しでも役に立ちたい”その熱い思いに深く感謝し、患者さんに寄り添う優しい病院であり続

けるために、これからも当院スタッフと一緒に歩んでくださることを祈念してやみません。医事課



左から藤井さん・三室さん・松本さん・学長・病院長・社会保険労務士会代表

「ふれあい看護体験」に参加して

病院ボランティア 木野 徳子

数年前から外来受付で患者さん案内のボランティアをさせていただいています。ボランティア活動中は外来師長さんが気さくに声をかけてくださるし、外来各科のスタッフの方々といくらかの接触はありますが、実際のお仕事の様子を知る機会はなかなかありません。今年の春、新聞で「ふれあい看護体験」のことを知り、現場のお仕事を間近で見ることがボランティア活動にも役立つかもしれない、と参加を申し込みました。

けっこう緊張してどきどきしながら申し込んだのですが、申し込んでほんとうによかった。5月14日当日。最初のオリエンテーションと病院案内では、先進医療の研究と人材育成も担う大学病院であり、地域の災害拠点病院でもあるという浜松医大病院の特色をわかりやすく説明してくださいました。平時でも災害時でも医療を滞りなく提供するため、ハード面・システム面の工夫や配慮がきめ細かになされていると感じました。ボランティア活動でほぼ毎週目になっている外来受付の待合ソファが、非常時に簡易ベッドになることは、この日まで知らずにいました。病棟各階にずらり揃えられた非常食と装備。「大災害が起こったら、その時点で病院にいるスタッフは帰宅できません」。さらりと言われた言葉でしたが、拠点病院に勤務されるということの重みがずしりと響いてきました。

病棟での看護体験も、忘れがたいものになりました。意識がない患者さんにも、ひとつひとつ声をかけながら、丁寧に、かつてきぱきと処置。整理整頓された器具・機材。患者さんに投与される

薬のダブルチェック。医師、薬剤師、栄養士、事務職など、ほかの職種の方々との連携。患者さんや家族の状態への配慮。どれも、見ていてとても気持ちのいいものでした。当たり前に見えることを当たり前「継続」する、というのはとても難しいことではないかと思えます。適度な緊張感を保ちながら、でもギスギスしない。そのために地道な努力が日々続けられていると感じました。

実のところ、「ただ褒めてるだけの文章は信用ならない」と私は思っているのですが、すみません、これを書いていて、どこからも苦言をひねり出すことができません。問題点や課題がまったくない組織などないはずですが、この日は何より、「こんなに真摯に医療の現場で日々働く人たちがいる」ということをとても心強く、そしてありがたく思いました。

病院は改修工事もいよいよ完成に近づいていて、ボランティアとしても気合が入ります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



院内学級（たんぽぽ学級） 治療と学習の両立

“入院中でも勉強がしたい” 真剣に勉強に打ち込む姿はいきいきと輝いています。

病院の中とは思えない「教室」は、安心して学べる環境が整えられ、専任の教師（有玉小・積志中）が医療スタッフと連携し、一人ひとりの体調や学習進度に合わせて、学びたい意欲を精一杯応援し、大切に見守り育てています。

自然と笑顔を交わす生徒とスタッフの間には強い絆で結ばれています。はるか未来を見つめる瞳の中には、さらなる学ぶ意欲と生きる希望が詰まっています。

地元新聞にも当教室の取り組みが紹介されまし

た。（2013.3.28静岡新聞（夕刊））

院内学級のパンフレットができました。詳しい内容をご紹介します。

ご希望の方は下記までご連絡ください。

医事課医事企画係 053-435-2115



相談カウンターコーナーの紹介

平成25年4月1日 入院予約・検査説明・栄養相談カウンターがオープンしました。

主として、入院予約時説明と前処置のある検査の説明、入院時看護情報収集、栄養相談受付をしています。4月の実績は、入院予約時説明603名、検査説明165件、情報収集118件、介護認定や利用サービス等の医療福祉支援センターへの情報提供は、30件でした。

入院予約時説明、栄養相談は、従来の業務ですが、場所が変更になりました。

検査説明は、各外来や中央診療部で担当医や看護職員が説明していましたが、外来診療をスムーズにし、禁食時の内服薬の確認など丁寧な対応をするため、カウンターで説明することにしました。降圧剤や糖尿病薬など注意しながら説明をしています。インスリン注射や抗凝固剤、抗血小板剤など担当医の指示が必要な場合は、オーダーした診療科に確認させていただくこともあります。

入院時看護情報収集は、入院前に必要な看護情報を得ておくことで、早期に患者把握ができ、入院前からの退院支援や専門・認定看護師の介入につなげることができると考え、入院手続きの後、時間がある方の看護情報収集をしています。1日

7～10名の情報収集をしています。看護師一人で最高10名の情報収集という日もありますが、入院まで日があるので、入力は翌日に持ち越してできるメリットがあります。手術の時間を知りたいとか面会時間以外には家族もだめなのかと入院や治療に関わる質問をされることもあり、病棟で相談していただくように案内しています。

入院予約時説明は患者数によって、対応スタッフを増減したり、検査説明と情報収集が重なって、対応できない場合は先に会計を済ませていただくなど、お待たせしない努力をしています。まだ、動き出したばかりの部署です。みな様の温かいご支援をお願いいたします。

看護部（久米 ひさ子）



病院玄関に手洗い・手指消毒設備ができました

皆様、病院に入ってすぐの正面玄関に手洗い水道と手指消毒用アルコールが設置されていることはご存じでしょうか。もともと2009年の新型インフルエンザ流行の時から手指消毒用アルコールを設置していましたが十分な手洗い設備がなく、今年1月の外来改修の際に水道を新しく設置しました。写真のような光景をよく目にするようになり、私たちもとてもうれしく思っています。

病院における手指衛生の重要性は、以前から医療従事者の間で問題にされていました。様々な感染症をもった患者さんの診療をするうえで、ヒトからヒトに病原体を移さないことは安全な医療への第一歩です。最近では鳥インフルエンザや風疹の流行もあり、来院者の中でも手洗いや手指消毒を意識される方が非常に増えてきています。院内職員も手指衛生に積極的に取り組んでおり、各病棟での手指消毒用アルコール消費量は年々増えてき

ています。

「病院の中に入るときは感染症を持ち込まない」、「病院の外に出る時には感染症を持ち出さない」ために、ぜひこれからも病院玄関の手洗い・手指消毒設備を利用してください。

感染対策室（澤木 ゆかり、八木 達也）



外来診療日一覽

H25.7.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～ 2時 専門外来

○：午前
△：午後
◎：午前・午後
◆：予約のみ

休診日 土曜日及び日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付 435-2632											
一般内科 初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第一内科 消化器内科	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	
腎臓内科	○	○	○		○	○	○	○		○	
神経内科	○	○	○		◆	○	○	○		◆	
第二内科 肝臓内科	○	○		○	○	○	○	◆	○	○	
呼吸器内科	○	○		○	○	○	○		○	○	
内分泌・代謝内科	○	○		○	○	○	○		○	○	
第三内科 血液内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
免疫・リウマチ内科	○		○	○	◆	○		○	○	◆	
臨床薬理内科	○			○		○			○		要問い合わせ
循環器内科	○	◆	◎	○	○	○	◆	◎	○	○	◎要問い合わせ
ペースメーカー外来											◆予約のみ、要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆					◆					
精神科神経科 受付 435-2635											
初診・再診	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
専門外来 児童思春期		○					○				
摂食障害外来								△			
認知療法外来									○		
摂食障害デイケア							◎		◎	◎	
小児科 受付 435-2638											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
専門外来 内分泌・遺伝		◆					◆				
内分泌		◆			◆		◆			◆	
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液									◆	◆	
免疫・アレルギー	◆					◆			◆	◆	
神経		◆		◆			◆		◆		要問い合わせ
腎臓				◆					◆		診察日は、第2、4週のみ
新生児フォローアップ							◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
在宅医療								◆			
小児外科 受付 435-2638											
初診・再診				○					◆		
外科 受付 435-2641											
第一外科 呼吸器外科			◆					○		○	
一般外科（内視鏡）	○		○		○	○		○		○	
乳腺外科	○	○			○	○	○			○	
心臓血管外科	◆		◆		◆	○		○		◆	
外科 受付 435-2642											
第二外科 上部消化管外科			○					○			
下部消化管外科	○					○					
肝胆膵外科					○					○	
血管外科		○					○				
緩和ケア外来	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
脳神経外科 受付 435-2644											
初診・再診	○	○		○	○		◆		◆	◆	
整形外科 受付 435-2647											
初診・再診	○		○	◆	○	○		○	◆	○	
専門外来 教授外来（脊椎）	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆					◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節					◆					◆	
小児整形	◆					◆					

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科 受付 435-2650											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
専門外来	乾癬外来		○	○			○		○		
	アトピー外来	○		○		○		○			
	光線過敏症外来		○				○				診察日は、奇数月の第4週のみ
	脱毛症外来	◆				◆					
	化学療法スキンケア外来		○		○		○		○		
泌尿器科 受付 435-2653											
初診・再診	○	○	○	○			○	○	○		
専門外来	腎移植外来		◆	○※	○※1		◆	○※1	○※1		※第4週は休診 ※1 第2週は休診 ◆第4週の午後のみ
	排尿障害外来		○		○		○		○		
	不妊症外来	◆				◆				◆	月曜日第2週は休診
	前立腺密封小線源外来						◆				
眼科 受付 435-2656											
初診・再診	○	○※	○	○	○	○		○	○	○	※院外からの紹介のみで 平成25年8月から休診
専門外来	網膜変性外来		◆				◆				
	斜視・弱視外来							◆			
	ロービジョン									◆	
耳鼻咽喉科 受付 435-2659											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
専門外来	腫瘍外来	○				○					
	耳外来				○				○		
	めまい外来			◆							
	耳鳴外来		○				○				
	難聴外来・人工内耳外来		○				○				
	睡眠時無呼吸・いびき外来				○					○	
	顔面神経外来				○					○	
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆	
産科婦人科 ○ 受付 435-2662											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	女性医師ご希望の方はお申し出ください
専門外来	婦人科外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	産科外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	腹腔鏡外来		◆				◆				
	光療法外来			◆				◆			
	母親学級						◆				予約制
	女性漢方外来		◆				◆				診察日は、第1、2、4週のみ
A R T 室	435-2664 不妊外来					◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付 435-2665											
放射線治療外来	○	○	○	○	○	◆	◆	◆	◆	◆	
アンギオ外来		○	○	○	○		◆		◆		
麻酔科蘇生科 受付 435-2668											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
リハビリテーション科 受付 435-2747											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
形成外科 受付 435-2496											
初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		
							◆				午後
歯科口腔外科 受付 435-2673											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	} 専門外来の診察日は不定期のため、 歯科口腔外科外来受付にお問い合わせください
専門外来	唇顎口蓋裂外来			○				○			
	インプラント外来			○				○			
	顎補綴			○				○			
	矯正歯科				○					○	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

《車いす10台》が寄贈されました

4月19日(金)、『浜松グリーンライオンズクラブC N30周年記念式典』がコンコルドホテル浜松に於いて挙行され、当クラブより記念事業として、本院に車いす10台の目録授与が執り行われました。

本院からは瀧川病院長が出席し、寄贈を受けて「大いに活用し、患者様のアメニティ向上を図りたい。」と感謝の意を表しました。

医事課



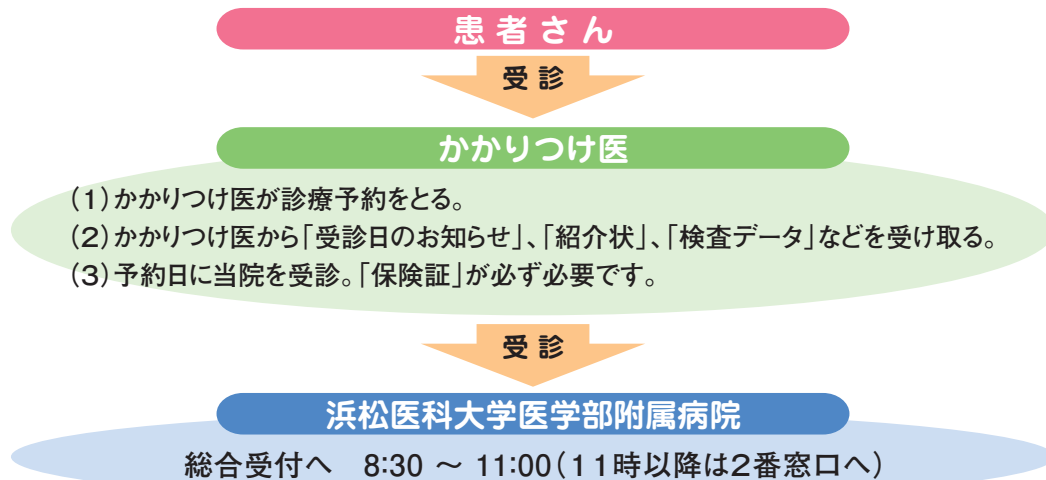
患者さんへの大事なお知らせ 外来初診予約制の導入について

実施時期：平成25年9月2日(月)～

完全予約制の診療科

消化器内科	腎臓内科	神経内科	内分泌・代謝内科	呼吸器内科
肝臓内科	循環器内科	血液内科	免疫・リウマチ内科	一般内科
呼吸器外科	乳腺外科	上部消化管外科	下部消化管外科	胆・肝・膵外科
血管外科	小児科	小児外科	脳神経外科	整形外科
皮膚科	泌尿器科	眼科	放射線科	麻酔科蘇生科
産科婦人科(婦人科外来(妊娠の可能性のある方を除く。))				

完全予約制の流れ



従来どおりの診療科

臨床薬理内科	精神科神経科	心臓血管外科	一般外科	耳鼻咽喉科
歯科口腔外科	形成外科	産科婦人科(産科外来、不妊外来、腹腔鏡外来)		

- ※ 紹介状・予約なしでも、受診できます。ただし、紹介状をお持ちでない方は、初診時保険外併用療養費として、3,150円をご負担いただきます。
- ※ 精神科神経科では、他の医療機関で治療を受けている場合には、紹介状が必ず必要です。

(お問い合わせ先) 浜松医科大学 医事課 外来事務室 TEL:053-435-2605



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。

病院広報 **はんだ山の風** 第12号 平成25年7月発行

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会 〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課) Hpアドレス/ <http://www.hama-med.ac.jp/>